

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年1月7日(金)

### 《自ら祈る習慣を持ちましょう》

#### 主の平和

皆様、ミサ以外に祈るために取る時間はどの位でしょうか。今日、私が皆様と話し合いたい内容です。簡単に考えて下さい。朝目が覚めたら自然と十字を切って、「今日一日あなたのお守りの内に生きることができますように」といった、簡単な祈りから始まる人は？ 率直に手を上げて下さい。それでは夜枕する前に、枕をしてからでも「今日一日感謝致します」と習慣的にでも必ず祈りを忘れない方は手を上げて下さい。はい、感謝します。(両方共、多くの手が上がりました) このくらいだったら、本当に素晴らしいよい成績だと思います。実際私達は、今日の福音(ルカ5・12-16)を通して考えるべきではないかと思うことは、活動とか色々な奉仕の生活とか、教会の教えに対してはよく従おうとしているのですが、それがあまりにも強調されて、個人の靈性の生活をちょっと軽んじてしまう場合があるのではないかと思います。

皆様、「三つ子の魂百まで」と言う諺がありますが、私達は意識的に祈りの時間を取ろうとする努力が、何よりも必要だと思います。皆様各自、色々望みとか不安とかについて心が通じる人と話をしたい、聞いてみたいという気持ちが沢山あると思います。しかし、そのように思いながらも神様に話し掛けないのが大体の私達の姿だと思います。この頃寒い日が続いているせいかも知れませんが、聖堂がミサ以外は空いています。一人で来て祈っている姿も中々見えません。ですから私が祈る姿を皆様に見せなかったのもその影響もあるのではないかと考えて深く反省致します。

私達の24時間を考えてみますと、いつも信者なら、そして、御国に憧れ慕うその気持ちがあれば、私達は寝ている時間以外は、目が覚めている時にはある程度はイエス様のことを考えて祈りの時間を取ることが出来ると思います。熱心な人は夢の中でも神様に祈っているかも知れませんが、(笑)それはともかく、その心がもし皆様に出来れば誰が見ても皆様の顔が穏やかな、平安な顔になれると思います。

今日のイエス様にも、人々が集まって来て要求しました。何かを求めました。「あなたの話をもっと聞かせて下さい。」とか「私はこのように痛いので癒してください。」と、このように懇切に願っている人々がいるにも関わらず、イエス様はちょっと静かなところに退いて、祈りの時間を取ったとあります。全知全能な神様さえ祈る姿を私達に見せたのに、ある意味で何も無い私達が、何も願わずに何も祈る時間も持たずに、何を願っているのでしょうか。何が成し遂げられるのを望んでいるのでしょうか。いいえ、それはあり得ないことだと思います。

もし皆様、私達のカトリック共同体で、信者が多分100分の1だけでも自ら祈るその習慣、その心があれば、教会は、カトリック教会は色々な彷徨いから解放されると思います。

皆様、今日もこれから病者の秘跡と按手をいただきます。私達が必要な時、その時手を伸ばすのが当然かも知れませんが、先ず感謝の心でこの病者の秘跡に与って下さい。何について感謝するのでしょうか。このような病気を通して、「あなたに私が願うことができたので感謝します」と、おっしゃってください。「健康な状態も何もいない全てのことを手に握っていたら絶対神様に目を注ぎません。」それが普通の私達の姿でしょう。皆様が苦しみの内、病の内、悩みの内にいるからこそ神様に会ったことかも知れません。そういう心を感謝しながらこのミサに与りましょう。

ありがとうございました。